

～絵本作家はりたつおさんが見た龍ヶ崎～

市民が選ぶ龍ヶ崎の魅力を

人気アニメとのコラボで描く

オイラたちにも、やさしい龍ヶ崎



妖怪人間ベム × 茨城県 龍ヶ崎市

「龍ヶ崎ってなにもないよ」
「なにもないよ」
「本当になにもないの
でしようか？」

「龍ヶ崎ってなにもないよ」そんな声を聞くことがよくありませんか？龍ヶ崎って本当になにもないのでしょうか。

市では、龍ヶ崎の魅力を市民の人に改めて感じてもらうたり、知ってもらい、まちへの愛着を醸成する取り組みを進めています。

約4000人を対象に実施しているまちづくり市民アンケートでは、毎回「龍ヶ崎で一番好きな場所を教えてください」という質問を設定しています。

今回、市民の皆さんの回答で上位にくる「自慢できるスポット」を中心に本市の良さを改めて感じてもらうおうと5つのスポットとプロローグ1編の6点のイラストを制作。

絵本作家はりたつおさんにより描かれた、『妖怪人間ベム』と『昆虫物語みなしごハッチ』の50周年記念企画でコラボした当市イメージアツプポスターが完成し、3月6日（金）から市内やJR常磐線沿線の駅に順次登場します。

オイラたちにも、やさしい 龍ヶ崎

ストーリー仕立てのポスターのメインコピーは「オイラたちにも、やさしい龍ヶ崎」。

アニメの中では、人間に裏切られ続けるベムたち。それでも「はやく人間になりたい」と願っています。

このストーリーでは、そんなベムたちが「人間は願いを叶えるためにいろいろな場所に旅をするんだよ」と虫たちからアドバイスをもらい、各地をハッチと旅します。ある日、彼らは一年中ワクワクできる街があると聞きつけます。

期待と不安に胸膨らませ、訪れたのは龍ヶ崎市。そこでいきいきと暮らしている人々の「自慢できるふるさと」を自身の目で見て、人と触れ合い、ベムたちは龍ヶ崎の良さを実感していきます。



絵本作家が描く龍ヶ崎 「子どもたちに 楽しんでもらえる絵を」

今回のイラストのテーマは「市民に愛される人気スポット」。まちづくり市民アンケートをもとに、市内5カ所を選出しました。作画・ストーリーはDenesse「しまじろう」をはじめとするキャラクター絵本などの作品を手掛けている絵本作家・はりたつおさんが担当し、鮮やかな色彩と心温まるストーリーで龍ヶ崎市の魅力を生き生きと表現しています。

龍ヶ崎市の大きな魅力は「人の温かさ・やさしさ」と話すはりさん。20代の頃、佐貫駅そばのホテルに宿泊しながら、近隣施設のデザイナーとして働いた経験があり、今回当市からの依頼を受けた際に「ものすごく縁を感じた」そう。

当時、感じた地元の人たちの心の温かさ・やさしさは、今でも心に残っており、「故郷ではないけど、思い出深いところ」だそう。そして、まちの印象は「空がとてと広くて、木々が太くて魅力的なものも大きな特長ですね」とも。

はりさんが感じている龍ヶ崎市の魅力は、作品のたつこのフィールドの空やたつのこやま（龍ヶ岡公園）の木々、そこで遊ぶ子どもたちの姿として表現されています。

5つの人気スポット（風物）は、たつのこやま、たつのこフィールド、牛久沼、撞舞、般若院のシダレザクラ。

作画に当たって、はりさんは「子育て支援に力を入れる龍ヶ崎市では、子どもが主役。子どもた

ちに楽しんでもらえるような絵作りを心掛けた」とのことです。

アニメキャラクターで表現する 「地域で子どもの成長を 見守るまち」

有名絵本作家の起用とともに、幅広い世代から愛されているアニメキャラクターとコラボレーション。イラストでは、『妖怪人間ベム』と『昆虫物語みなしごハッチ』に登場するキャラクターたちが、龍ヶ崎をお散歩していきます。

ベムたちが、ハッチと一緒に龍ヶ崎を巡ることで、はりさんが語ったような人のやさしさに触れ、改めて「人間になる」ことへの想いを強めていくストーリーです。

魅力的な風景はもちろんのこと、イラストの中で印象的なのが、ベムを見守るように少し離れた所に描かれているベムとベラ。

これは「大人が一步引いて子どもの成長を見守れるまち」つまり、「地域が子どもたちを育てて

いる、まちに子育てを任せられる安心感」を表現したかったからだろう。

実は、「子育て環境日本一」を目指す龍ヶ崎市が平成28年に宣言した「子育て応援都市宣言」にも、同じようなフレーズが。まちの宝である子どもたちを、地域全体で育てていく…そんな想いも込められたイラストです。

隠れている？ まいりゅうを見付けよう！

このイラスト全作品に実はこっそり登場しているのが、龍ヶ崎の子どもたちに人気の当市のマスコットキャラクター「まいりゅう」。龍ヶ崎を散歩しているベロやハッチたちを見守ります。

はりさんいわく、「ポスターを見かけたら、子どもたちがここにまいりゅういるよ！って遊べるような要素も入れてみました」。遊び心がたっぷり盛り込まれたイラストにいる「まいりゅう」を探すのも、このポスターの楽しみ方のひとつになるはず。



はりたつお
版画家・絵本作家
イラストレーター

1974年鳥取県生まれ。現在までにキャラクター絵本の作画を多数手掛けている。版画作品は、子どもの笑顔と音楽をテーマに制作。特に風景画に定評があり、独特のタッチと色彩に溢れた作品を発表し「風景画の詩人」として評されている。



全6作品を龍ヶ崎市駅でパネル展示！

今回制作したイラストを、龍ヶ崎市駅東口を中心にパネル展示します。全6作品のうち、今号の表紙にもなり、多くの方に人気の「たつのこやま」を描いた作品は、東口階段下に5.2m×2.4mの圧巻のサイズで展示します。その他の作品はポスターで展示しますので、ぜひご覧ください。

■期間 3月14日(土)～31日(火) ■場所 東口階段・エスカレーター壁面など



JR常磐線沿線の駅に イメージアップポスターが登場

今回制作したポスター6点を、千葉県内を中心としたJR常磐線沿線の駅に掲出し、当市への近さをお知らせするとともに、気軽に遊びに来てもらえるようイメージアップキャンペーンを行います。

■期間 3月6日(金)～23日(月)
※駅により期間が異なります
■場所 取手駅・我孫子駅
柏駅・新松戸駅・北千住駅



着色し、切り抜いた薄葉紙を貼り合わせていく。今回のようなイラストだと数えきれないほどの枚数になるそうで、気の遠くなるような作業です。

※包装紙などに使われる半透明の薄く漉いた紙

素朴さと華やかさ、心安らぐ切り絵の世界

はりさんが制作する作品で用いられるのは、切り絵の手法。着色した薄葉紙※を切り抜いてパーツを作り、それらを貼り合わせて作画しています。展覧会用の作品制作では、切り抜いた薄葉紙を台紙の上のりで貼る作業を繰り返すそう。ただ、今回のような印刷物（ポスターなど）になる絵では、修正があることも多くあるため、切り抜いた薄葉紙を一枚一枚スキャナーでデータ化し、それをパソコン上で貼り合わせ、作品を完成させていくそうです。

手作業の部分は大変な手間ですが「素材感を大切にするために」敢えて全てをデジタルにはしていないとのこと。実際に作業現場を見ると、このアナログの部分が、見る人に素朴な印象や安らぎを与えてくれるのだと感じます。

都心に近いのに、どこかホッとする田舎的要素を持つ龍ヶ崎とも、似通っている手法との印象を受けました。



【般若院のシダレザクラ】

例年3月末には開花する般若院のシダレザクラ。全6作品の中の1枚、龍ヶ崎の春の風物詩をどのような思いで、はりさんが描いたのか伺ってみました。

「桜が立派で、みんなが知っている桜でしょうから、写真にならないように意識して描いています。木って上に枝を広げていくし、空に向かって伸びていく姿を表現するため、枝を支える支柱が空に向かって突き抜けていくような

イメージで描きました。空の広がりも感じてもらえるのかなと思います。また、支柱を描いたことで、コマ割り漫画のようにも見えますので、構図として面白いものになりました」

お気に入りの「龍ヶ崎の風景」写真投稿募集中！

龍ヶ崎市PRサイト「たつのごアクション」では、皆さんがオススメする「龍ヶ崎のお気に入りスポット」情報の投稿を募集中！ 今回のテーマは「お気に入りの龍ヶ崎の風景」です。



投稿いただいた方の中から抽選で3人に「まいりゅうハンドタオル」をプレゼント！ QRコードからぜひご投稿ください！皆さんの投稿をお待ちしています。

抽選で
3人に当たる！

